

「日本さくら祭り in Vietnam 2009」体験記

～ ～ 今浦島 ～ ～

初夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、4月7日、11時 成田空港から「さくら祭り」協賛のベトナム航空で現地時間14時30分(時差2時間)到着しました。

ベトナムは、活気に溢れ、エネルギッシュでした。噂どおりバイクが非常に多く、若い女性がハイヒール、携帯電話で話しながら走っています。3～4人乗りも当りまえ、ベトナムに交通ルールは、信号機が少なくトラック・バス・乗用車・バイクの順に大きい車が優先のようです、けたたましくクラクションを鳴らしながら走ります。その中を人が撥ねらぬように道路を横断しています。



ベトナム不動産バブル崩壊の噂がありますが、街は、朝8時から工事の音がし、いたる所に建設中のビルが見えます。新しい開発地、FPT本社近辺に東京の汐留、お台場の様な高級住宅・オフィス街が造成中でした。若く成功した企業家が集まっているとの事でした。

翌日、8日には、桜井東大名誉教授の随員として、東南アジアを誇るベトナムの日本大使館にて坂場大使と会食しました。大使によるとベトナムでは年配者を敬い、例えば、お年寄りがバスに乗ってくると必ず若い者が席を譲り、気が付かなければ車掌が退かすそうです。そして、礼儀・挨拶を重んじ、彼らは、プライドが高いので、衆目で誉め、叱責する時は2人きりで行ない、女性に花を贈る習慣があり、誉めると物事が順調に進むそうです。ただ、嫉妬心が強い国なので公平に行なうのが肝要との事。



そして、噂に違わず日本以上に治安が良く、たいへん親切でした。例えば、タクシーが道に迷い目的地と違う美術大学に行ったところ、英語もベトナム語も話せない私の為に、学生達が正しい目的地を運転手に教えてくれました。

また、夜8時ごろ一人で提燈・ボンボリを設営していると、通りがかりの7～8人の高校生が皆で手伝い始め、自分達でワイワイガヤガヤ楽しみながら作業を進めます。

夜10時、やっと作業が終わると颯爽と走り去って行きました。私に爽やかな気持ちを残して。



今回のイベントは、設営業社のミスや数々のトラブルが起き、何度も駄目かと思うことがあったそうです。それでも25歳の青年をリーダーに、毎日3～4時間の睡眠で1ヶ月休みなく働き、英語・日本語・インターネット・パソコンを使いこなす若く優秀なベトナム人スタッフ達の情熱が、28万人動員のイベントを成功させました。

よさこい・南京玉簾・白拍子などの出演者やボランティアスタッフは、彼らの屈託の無い明るい笑顔に感動し、来年も来ることを誓いました。

国民の平均年齢25歳、若く優秀な彼らが35歳の10年後、社会の主役と成った時、間違いなく経済大国とし驚進しているものと思いました。

ところで、14日、成田に到着し東京に向かう間、老成した日本を肌で感じ愕然としました。圧倒的に若者が少なく、笑顔が見えない、死んだような目をした人々。全てが統制されたような重い空気。

よく言われるように今のベトナムは、昭和30年代の日本と言われます。あの活気が私の親達が寝ずに働いた高度成長期の雰囲気ならば、私が感じた現在の東京は、浦島太郎が玉手箱を開いた時の感じかもしれません。白髪の人々、高齢化社会です。

株式は、成長に投資します。先例の無い高齢化と膨大な借金を抱える我国より、高度経済成長期入りしようとするベトナム投資の方が高確率では…タイムマシン投資の好機なのではと強く思いました。